

冠攣縮性狭心症は予後良好ながら 致死性不整脈で心臓突然死の可能性も

冠攣縮性狭心症(CSA)による心臓突然死は、急性虚血に伴う致死性心室性不整脈が原因と考えられます。不整脈の再発予防のために、まずCa拮抗薬による冠攣縮予防が必須となります。また近年、植込み型除細動器(ICD)の役割が議論されています。今回は、CSAにおける心臓突然死の知見と治療におけるICD適応の考え方、そして冠攣縮性狭心症におけるアダラートCRの有用性について紹介します。



CSAにおいて
致死性不整脈が原因の
心臓突然死が
報告されています。



* Miller DD, et al. Circulation 1982; 66: 588-592
Yasue H, et al. Circulation 1988; 78: 1-9
Satoh S, et al. J Cardiol 2013;61:404-409

冠攣縮性狭心症の 発作予防治療にはCa拮抗薬が第一選択です。

冠攣縮性狭心症の予防

- ・ 禁煙などの生活習慣の是正
- ・ 薬物療法…Ca拮抗薬

クラスI	冠攣縮性狭心症へのCa拮抗薬投与
クラスIIa	なし
クラスIIb	なし
クラスIII	なし

冠攣縮性狭心症の診断と治療に関するガイドライン(2013年改訂版)

薬剤抵抗性症例に対してはICDの有用性も示唆されています。

【不整脈の非薬物治療ガイドライン 2011年改訂版：ICDによる二次予防】

- 急性の原因による心室頻拍、心室細動の可能性が高く、十分な治療にもかかわらず再度その原因に暴露されるリスクが高いと考えられる場合(クラスIIb)



済生会熊本病院 心臓血管センター循環器内科 不整脈先端治療部門 最高技術顧問 奥村 謙 先生のご紹介

経 歴

昭和 51年 3月 熊本大学医学部卒業(医籍第231308号)
6月 熊本大学医学部附属病院第一内科(研修医)
昭和 53年 4月 熊本市立熊本市市民病院内科(医師)
昭和 54年 4月 熊本大学大学院医学研究科入学
昭和 58年 3月 同上修了(医学博士、熊本大学)
7月 米国アラバマ大学医学部内科循環器部門留学(リサーチフェロー)
昭和 61年 2月 熊本大学医学部循環器内科 助手
昭和 62年 4月 同上 講師
平成 5年 4月 同上 助教授
平成 8年 4月 弘前大学医学部内科学第二講座 教授
平成 13年 4月 弘前大学医学部 学事委員長(～平成17年3月)
弘前大学医学部附属病院 病院長補佐、救急部長(～平成15年3月)
平成 18年 4月 弘前大学医学部 副医学科長、学務委員長(教務主任)(～平成24年1月)
平成 19年 4月 弘前大学大学院医学研究科 副研究科長(～平成24年1月)
平成 24年 2月 弘前大学 教育研究評議員(～平成26年3月)
平成 28年 4月 済生会熊本病院 心臓血管センター循環器内科 不整脈先端治療部門 最高技術顧問

専 攻

内科学、循環器病学(とくに不整脈、虚血性心疾患、冠循環)
日本内科学会認定内科医、
日本循環器学会認定循環器専門医、
日本脳卒中学会認定専門医、
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医

所属学会等

日本循環器学会(評議員)、
日本不整脈心電学会(平成27年5月設立、初代理事長)、
日本不整脈学会(会頭(理事長))、
日本心電学会(理事)、
日本内科学会(評議員)、
日本心臓病学会(評議員)、
臨床心臓電気生理研究会(常任幹事)、
日本脳卒中協会青森県支部長